

詩集 黒い蝶

定価 1,000円

印刷 1981年 6月15日

発行 1981年 6月25日

著 者 宮中雲子

発行者 佐藤房枝

発行所 木曜会出版部

東京都文京区弥生 2-16-1

サトウハチロー記念館内

電話 03 (811) 3595

印 刷 啓 文 堂

東京都新宿区水道町52

電話 03 (269) 5251

落丁・乱丁本はお取替えいたします

詩
集

黒
い
蝶

宮
中
雲
子

目次

月に抱かれて

快い反芻 10

心待ち 12

無の幸福 14

月と私 16

誕生石の謎 18

愛を計る 20

月 22

ただそれだけで…… 24

茫然 26

静かな愛 28

バレンタインデー 30

月よ 32

まだ？ 34

とぎれる想い 36

予感 38

透明な障壁 40

終止賦 42

愁いの花束

桜草に想う 46

藤紫の朝 48

ムスカリエ 50

待つ 52

午後の孤独 54

初夏の憂鬱 56

風とはりえんじゅ 58

黄檗の花を唄う 60

祈り 62

幸せを醸す 64

金木犀の咲いた日 66

滅びる 68

冬のばら 70

別れの日に 72

孤独のささやき

黒い柩 76

黒い蝶 78

初雪 80

孤独という針 82

月の孤独 84

遠吠え 86

夜更けの雨 88

とある晩秋に…… 90

闇を招く 92

羨望 94

悦楽のあとに 96

じれったい…… 98

心に漂いきてやさしく

故郷の絵 102

―心の回り灯籠―

故郷の日暮れをなつかしむ

かんかん 106

魚屋 108

鍛冶屋 110

お鹿ばあさん 112

石屋 114

ふるさとの祭りをうたに

牛鬼 116

五つ鹿 118

思い出にゆれる故郷 120

―春のアラベスク―

月に抱かれて

快い反芻

夜の中で

幸せだった今日を反芻する

微笑みに微笑みをからめて

言葉もなく見つめ合っていた午後

溶け合う思いは

粗末な木綿のテーブル掛けに

ビロードのやわらかさと豪華さをかさね……

愛を呼吸する唇

愛を感じとる耳たぶ

愛をはりつけて輝やく肌

まばたきがまばたきをさそい

目にやきつけていた互いの姿を

脳髓へ送り届けてもなお

目には又

かわりない互いの姿があつて……

午後は　ためらいながら

ひそやかに過ぎていき

空になって久しいコーヒー・カップに

朱色の光をそそいだ夕陽

明るさを

もうこれ以上　留めておけなくなった窓が

力つきて

黄昏のひろがるにまかせてしまふまで

やさしさに包まれた時を

ほどこうとしなかった二人

夜の中で

幻でなかった今日の幸せを反芻する

心待ち

宵待草の
蕾のほどけるひそやかな音さえ
聞いたような気がした

待つ人の足音を求めて
私の耳は敏感になりすぎている

なまじ

来るかもしれないとの
かすかな期待があるから
待つという時に身をゆだねるしかない今夜

夜に抱かれてあでやかな
宵待草の黄色が目にしみる

無の幸福

あなたの胸の
燃える熔鉱炉に
私を投げこむ

燃えて

溶けてゆく快さ

私

無くなって幸福